

焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



「九九が覚えられない理由」

3年生の通級児童の話です。かけ算九九を確実に覚えていないということを聞いたので、まなびの教室でかけ算九九の復習をしました。本児は「4・6・7・8・9の段が難しい」と教えてくれました。

～かけ算九九復習①～

九九が書かれたプリントを行いました。思い出せない九九は、九九表から答えを見つけて書けばいいという方法で行いました。この時は気付かませんでした。九九を音にしていなかったため、正しく発音できていないことに。

～かけ算九九復習②～

九九の発音が正しくできているものと思い込んでいたので、「早口九九」を行いました。そこで気付いたのです。九九に出てくる数字を正しく音声化できていないことに。

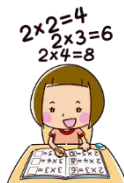
例えば7「しち」と4「し」。9×3=27であれば「にじゅうしち」が「にじゅうし」になったり、9×6=54「ごじゅうし」が「ごじゅうしち」になったりしていたのです。九九を声に出して唱える時、語尾の音(一の位の音)が小さくなる傾向がありました。

音声だけで九九を暗記しようとしたため、いいにくい音や聞き取りにくい音が間違いを引き起こす原因となっていたようなのです。

他の通級児から、7は「しち」でなく「なな」、4は「し」ではなく「よん」と発音したいと相談されたことを思い出しました。例えば 4×6=24は「しろうくにじゅうし」ではなく「しろうくにじゅうよん」、3×9=27は「さんくにじゅうしち」ではなく「さんくにじゅうなな」といった具合です。その子は、自分で言いにくさや聞き取りにくさを実感していたものと思います。

以前出会った別の通級児は、以下のような間違え方をしていました。数字ではなく音やリズムに反応していたのです。

「2×3=12」	「4×3=6」	「5×9=54」	「6×9=45」
ni san	si san	go kku	ro kku



特別な支援が必要な子には、数字と音を一致させて覚える練習も必要なのです。九九を覚える時は、正しい九九の読み方(音声化)がなされているのかを確認することが大切だと思いました。

かけ算は、算数の学習ではありますが、滑舌をよくしておくことは、かけ算九九を正しく覚える近道になるような気がします。